

第8回 国連安保理がガザ和平案を採択^{さいたく}

2023年10月以降^{いこう}、イスラエルと、パレスチナ自治区のガザ地区を支配する武装勢力^{ぶそう}のハマスとの戦いは長期化し、多くの犠牲者^{ぎせいしや}を出しました。こうしたなか、2025年以降、アメリカのトランプ大統領らが仲介^{ちゅうかい}して、イスラエルとハマスの和平交渉^{こうしやう}がすすめられてきました。

11月17日、国際連合の安全保障理事会^{ほしょう}は、トランプ大統領が主導したガザ地区の和平計画を支持する内容の決議案を賛成多数で採択^{さいたく}しました。

常任理事国5か国のうち、アメリカ・イギリス・フランスの3か国と、すべての非常任理事国の10か国をふくむ13か国が賛成しました。常任理事国であるロシアと中国は拒否権^{きよひけん}を行使せず、棄権^{きけん}しました。

国連のグテーレス事務総長の報道官は、今回の採択は「停戦の定着に向けた重要な一歩」だと述べました。今回の決議案には、複数の国連加盟国による「国際安定化部隊^{かいめいこく}」が、ガザ地区の停戦や治安の維持をにやうことがふくまれています。

しかし、ハマスが武装解除^{かいじょ}しない方針^{ほうしん}を改めて表明したほか、イスラエルはパレスチナの国家樹立^{じゅりつ}に強く反対しているなど、今後の先行きは依然^{いぜん}として不透明^{ふとうめい}なものとなっています。

チャレンジ問題

- 1 ガザ地区の和平計画を主導した人物はどの国の指導者ですか。
- 2 ガザ地区の和平計画を支持せずに棄権した常任理事国を次から2つ選んで、記号で答えなさい。

ア	アメリカ	イ	イギリス	ウ	フランス
エ	ロシア	オ	中国		

答え

1 **アメリカ**

2 **エ・オ**